

## 県内フィールドワーク課題レポートまとめ

本日(6/5)の県内FWを受けて感じたことや、これからの自分の研究に生かせることを考えたことを書きなさい。

今回の県内FWを受けて、石岡市民でも知らなかった魅力や観光推進の取り組みを知ることができ、あらためて石岡市の良さを実感した。様々な方向からの観光推進の取り組みが考えられていて勉強になった。「石岡セレクト」の商品を買って、友人にも紹介したいと思う。また、お話を聞いて、石岡市の強みと課題を理解した素晴らしい地域活性化の計画が考えられているのに、それが結果に現れていないことが惜しいと感じた。しかし、私が幼かった頃に比べて石岡市が良い方向に進んでいることは明らかなので、さらに活性化することを願い、私も市民の1人として出来ることを考えていきたいと思う。また、石岡市のように、課題解決に向けたアイデアが生まれても実行に移すのに時間がかかる、または実行できても結果が現れにくいということは私たちの探究学習と重なる部分があると思う。これからの自分たちの研究で出てきたアイデアや開発したものを実用化するところまで進められるように完成度の高い探究を目指していきたい。

石岡市では地域復興のため観光事業に力を注いでいることがわかったが、まだまだ課題が残っており、根本的な解決策が見つかっていないと思った。また、石岡に住んでいる身であるが、石岡の観光推進の取り組みについて知らないことが多くあった。これは単に私の勉強不足のせいでもあるが、取り組んでいる政策、特に観光についての取り組みは積極的にアピールしないと意味がないのではと考えた。これは私たちの活動にも当てはまっており、先日一高祭でアンケートを行った際、投票を呼びかけるポスターなどを作っておらず、あまり周知が進まなかった。これからの活動では、効果的な取り組みだけでなく、それらをより効果的にするためのアピール方法も考えなくてはならないと感じた。

また、基本的なことだが、石岡市でもフラワーパークでも木内酒造でも現在の課題、自分たちが持っている強み、これからの展望をはっきりさせ、明確な取り組みを考えていた。特にフラワーパークでは課題を把握し、取り組みを考えるだけでなく、しっかりとリニューアルを実行した結果、現在の魅力のあるフラワーパークになっていた。私達も当たり前ではあるが、考えるだけでなく実行に移すことが大切であると思った。

地域活性化のために、予算がついていたり、自治体や企業の方針として打ち出されて実行されているということが実際見聞きできた、良い機会だったと感じた。また、アイデアや考えが明確にあれば、自分たちもできることがあるかもしれないと考えさせられた場面もあり、これからの活動が、より生活に身近で意欲的なものになっていくと感じた。

今回のフィールドワークで、考えすぎずに行動してみることや、多角的に考えて挑戦すること、市民や利用者など、自分たちの研究の対象となる人やものについてよく考えることなどが自分の研究に活かそうだと考えた。

今回のフィールドワークを通して筑波銀行さんが行っているSDGsに関連する取り組みを行っておりそれについて知ることができて身近な生活の中にもSDGsに関連することが沢山あるのだと気づくことができました、また経済について貴重なお話を聞いて大変興味を持つことができました。

また、石岡市が市の発展のためにマラソン愛好家のためにマラソン大会を開くなど様々な観光推進の取り組みをして試行錯誤を繰り返していたように様々な種類の実験を通して音楽と作業効率の関連性について調べていきたいと思いました。

まず筑波銀行さんのお話では、私は銀行とSEGsの繋がりがあまり思いつかなかったのですが環境が社会、経済の基盤となっているという話を聞いて銀行が環境を気に掛けるわけが分かりました。また、筑波銀行が数多くのベンチャー企業に融資をしている話を聞いて研究所や大学のあるつくばならではの強みであると思いました。

次に石岡市役所の方のお話では、私達の研究テーマに比較的近い内容でとても参考になりました。町おこしに関して重要なのはその地域特有の良さとそれを発信する機会なのだと思います。

フラワーパークに関して、私はリニューアル前のフラワーパークにしか行ったことがなく、最初入ったときに初めてきた場所かもしれない...と思うほど雰囲気を変化していました。藤野さんのお話は大変興味深く、フラワーパークのリニューアルを行う中でフラワーパークと石岡市・茨城県を結びつけているのだと思います。そのことは茨城県に住む人にとってもそうでない人にとってもフラワーパークに親しみを感じ、フラワーパークに行くことによって茨城県の良さを知る機会になると感じました。

木内酒造では海外に向けても茨城のお酒を売っているということに驚きました。

今回のFWで学んだことは地方には都市とは違った魅力があり地域創生のためには自分の身の回りを意識的に見て良さを発見することが大切なのだと思います。

つくば銀行が経済関連だけでなくSDGsについての活動支援を行っているという話を聞き、環境などに関するSDGsの課題に関わりのない銀行でも様々なSDGsに関する支援を行っているということに驚きを覚え、自分たちが研究している課題に関することを行っている団体をNPO法人だけではなく一般の企業や銀行などにも調べる対象を広げ、アンケートや訪問などで話を伺う必要があると感じた。

また石岡市では地域活性化に向けて観光や産業に関する事で課題と強みをしっかりと考えたうえで様々な取り組みを行っていることがわかったがフラワーパークも活性化のために様々な工夫を凝らしていることを知って、政府や自治体だけでなく民間の施設や企業の協力も必要不可欠であると感じ、研究に様々な面から考えなくてはいけないと考えた。

今回のフィールドワークでの石岡市役所の方のお話は私たちが研究テーマにしているまちづくりととても近い内容だったためすごく参考になりました。過疎化しないまちを作るのに欠かせないのはその地域の強みを生かすことだと思いました。私は正直、石岡市についての知識があまり無かったため、石岡のお祭りがすごく人気だということや、石岡産の果物・野菜はとても有名だということも知りませんでした。だからこそ、今回のフィールドワークで石岡市の魅力を知って、感じる事が出来て本当に良かったです。石岡市の活性化のための様々な取り組みについてお話を伺うことができ今後の私たちの研究に反映できることや、生かせることがたくさんありました。

今回の県内フィールドワークを通して、石岡市の特徴や魅力、観光客を呼び寄せるためにどのような取り組みを行っているのか、など自分の知らなかった石岡市の一面を知れて良い経験になった。また、筑波銀行が行っているSDGs推進プロジェクト「あゆみ」の概要を聞き、筑波銀行が地域社会の持続的成長にむけて、どのような取り組みをしているのかしっかりと知ることができ、その話を通して自分の一日一日過ごしている生活にもSDGsがあることを知れて、身の回りにある小さなことでもSDGsにしっかりと取り組んでいきたいと思った。

筑波銀行がSDGsに取り組んでいることを知り、自分の地域の企業も取り組んでいるのかどうか気になったので、そういう場所でもアンケートや話を伺いたいと感じた。

私たちは都市についてを探究のテーマとしている部分があったので地域活性化という点でも参考になった。石岡市が行っている事業を聞き、いろいろな視点から地域活性化を進めることができることや、直接は地域活性化だと私たちが認識していなかったロケを地元でやらうことや聖地化のメリットを知ることができた。また筑波銀行の方がお話ししてくださったことで、経済は社会があり環境があり成り立っているとわかり根本にある環境を立て直していくことが結果的にその先にもつながると感じた。今の状況は経済が振るわないことにより社会や環境に響いているようにも思えた。

筑波銀行さんのお話から、仕事内容や特徴を活かして地球問題の解決に向けた取り組みを行うことが重要であると感じた。銀行で言えば、資金面で環境問題についても貢献していて、強みを理解し、関わりを見出していたのが印象に残った。高校生には何ができるのか、広い視野を持ちつつ身近なことに繋げて考えていきたいと思った。石岡市役所の方のお話についても、市の強みと課題、世界や日本の今の流行り、時代の動きを分析して対策をうっていることは探究の進め方として自分たちも意識していきたいと思った。フラワーパークでは、実際に地元の食材や資源を五感で楽しむことができ石岡の魅力が伝わる施設だなと感じた。講義の中で、資本主義は本当に素晴らしいものなのか、経済成長はこれからも目指していくべきなのか、日本の人口一億人は妥当な目標なのか、鵜呑みにせずに考えてほしいという言葉が心に残った。未来を予測することが難しくても、一時的なものではなくて続けていける取り組みが必要だろうと考えた。木内酒造では、国内の麦を使用してウイスキーを作り、麦芽粕を豚の飼料に活用することで、地域の食や環境との関わりをもっていることが分かった。パンフレットには見学会の案内もあり、風土に根付いた製造の過程を発信することも行なっていて、こういった伝える取り組みも重要だと感じた。1日を通して、一緒に集まって解決策を出すようなことをしていなくても、それぞれの立場で石岡市や環境について考え、できることを全うすることで、活気のある市の雰囲気を作っていけることが分かり、自分の地元をもっと大切にしていきたいと思った。